

短歌集
たんかしゅう

はねず日記
にっき

第一集

鹿江
かのえ

朱華
はねず

【まえがき】

皆様、はじめまして。鹿江^{かのえ} 朱華^{はねず}と申します。

この度は、短歌集『はねず日記』の第一集を手にとって下さり、まことに有り難^{がと}う御座^{ござ}います。

歌人として、自分なりの短歌を何首も詠^よみ、SNSに投稿し続けた結果……その作品数はあつという間^まに、なんと三桁^{さんけつ}を越えていました！ 私自身も実は正直、その数に驚いてしまった程です。

そこで私も思い切^{みずか}って、短歌を嗜^{たしな}む他^{ほか}の方々^{かたがた}のように、歌集を出してみようと決意しました。

自らの実体験や、その日その時の心情や感情……それらを短歌にする事が多く、まるで日記みたいだなと感じたので、当歌集のタイトルを『はねず日記』に決めた次第^{しだい}です。

拙^{つたな}い作品ばかりではありますが……皆様がどれか一首でも、気に入った短歌を見つけれたら、私も非常に嬉しく思います。

『はねず日記』第一集、どうか最後までお楽しみ下さい。

〔目次〕

あ と が き	第 三 章	第 二 章	第 一 章
.	(((
.	二	一	一
.	一	一)
.))	十
.	三	二)
.	○	○	.
.))	.
.	.	.	.
.	.	.	.
.	.	.	.
.	.	.	.
.	.	.	.
.	.	.	.
.	.	.	.
2 3	1 7	1 1	5

※ 無断転載・複製・複写・Web上への掲載（SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む）は禁止です。
（^{ただ}但し、当歌集を入手した旨を報告する目的に限り、表紙のみを撮影・掲載するのは可）

※ 処分する際は、可燃ゴミとして廃棄してください。

※ 当歌集を出すにあたり、短歌を数首ほど手直し（^{すいこう}推敲）したので、当時SNSにて発表したものとは、少し違っております。

第一章 一 十

冬空ふゆぞらの

雲きから射さし込む

陽ひの光ひかり

じわりぬく温ぬくもる

体からだと心こころ

(二〇二三年 一月 二七日)

健すこやかに

育さち上がりし

子この姿すがた

懐なつかしき日々

愛いとしく想おもふ

(二〇二三年 一月 二八日)

我^わ
が
心^{こころ}

打ち^{くた}
砕^{くだ}
か
れ
た

その
刹^{せつ}
那^な

も
は
や
戻^{もど}
ら
ぬ

事^{こと}
を
悟^{さと}
ら
ん

(二〇二三年 一月 三〇日)

閃^{ひらめ}
い
て

始^{はじ}
め
よ
う
か
と

決^{けつ}
断^{だん}
す

だ
が
問^{もん}
題^{だい}
は

時^じ
間^{かん}
と
余^よ
裕^ゆ

(二〇二三年 二月 一日)

雪化粧ゆきげしよう

全てを白く

染め上げし

妙なる景色たえけしきに

此の胸弾むこむねはずむ

(二〇二三年 二月 一日)

憎き者にくもの

もう会うまいと

えにし切り

身内の情みうちじょうも

かなぐり捨てん

(二〇二三年 二月 一日)

朝早く

支度しながら

其の報せ

見聞きをしては

一喜一憂

(二〇二三年 二月 二日)

かすみ草

目立つ花では

あるまいが

小さき姿

まことに可憐

(二〇二三年 二月 二日)

寸前に

引き戻されし

我が命いのち

早まるなといふ

天のお告げてんか

(二〇二三年 二月 三日)

冷える朝ひ

買ったばかりの

コーヒーの

深き香りにかほ

眠気も冴えるさ

(二〇二三年 二月 三日)

第二章

一

一

（

二

〇

其^その災^{わざ}い

或^ある日突然

拈^ひがりて

明日^{あす}は我^わが身^みと

戦^{せん}慄^{りつ}走^はる

(二〇二三年 二月 三日)

これ以上

望^{のぞ}みは無^ないと

思^{おも}うたが

此^この先^{さき}君^{きみ}と

共^{とも}に生^なきたい

(二〇二三年 二月 四日)

突如とし
とつじょ

現れて来た

其の者に
そのもの

重ねてしまう
かさ

君の面影
きみ おもかげ

(二〇二三年 二月 四日)

自らの
みずか

黒く淀みし
くろとど

人生は

愛しき者が
いと

白く塗り替え
しろぬ か

(二〇二三年 二月 四日)

過^{あやま}ちは

外れぬ枷^{かせ}と

なり変わり

苦しみ招^{まね}く

糧^{かて}となろうぞ

(二〇二三年 二月 五日)

頂^{いただき}に

自^{みづか}らだけと

知^しった時^{とき}

やっと氣付けた

大切なもの

(二〇二三年 二月 五日)

知らぬ間に

一線越えた

あの日から

咎めし声を

只々受けん

(二〇二三年 二月 五日)

善行と

思ひ行ない

疎まれる

憂い嘆くは

世の生き辛さ

(二〇二三年 二月 五日)

其^その希望

未^{いま}だ残^{のこ}った

まゝ^まなので

笑^{わら}へるうちに

笑^{わら}っておこう

(二〇二三年 二月 六日)

カラフルな

金^{こん}平^{ぺい}糖^{とう}を

口^{くち}に入^いれ

程^{ほど}良^よき甘^{あま}さ

顔^{かお}も綻^{ほころ}ぶ

(二〇二三年 二月 六日)

第三章

二

一

）

三

〇

貴方^{あなた}との

愛^{あい}が失^なくなる

悪^あしき事^{こと}

遠^みい未^み来^{らい}で

ありますやうに

(二〇二三年 二月 六日)

いつだって

相手ばかりを

優先す

君^{きみ}の気遣^{きづか}い

常^{つね}に気掛^{きが}かり

(二〇二三年 二月 七日)

あの人が

教えてくれた

まじないを

言葉に出^だせば

不安消えゆく

(二〇二三年 二月 七日)

感情を

必死に抑^{おさ}え

振^ふる舞^まうが

速^{はや}まる鼓^こ動^{どう}

乱^{みだ}れし呼吸

(二〇二三年 二月 七日)

誰よりも

片方^{かたほう}に

強^{つよ}き貴方^{あなた}を

用意をされた

好^すいていて

可能性

追^おい求めたい

選ばれるのは

唯^{ただ}ひたすらに

果たして何方^{どちら}

(二〇二三年 二月 七日)

(二〇二三年 二月 八日)

さようなら

お世話になった

道具たち

感謝をしても

仕切れぬ程よ

(二〇二三年 二月 八日)

悉く

居場所と逃げ場

奪われて

生ける希望よ

何処へ参る

(二〇二三年 二月 八日)

傘^{かさ}
の中^{なか}

二人^{ふたり}
一緒に

入^{はい}
るなら

離^{はな}
れぬやうに

腕^{うで}
を組^く
もうか

(二〇二三年 二月 八日)

どうしても

何^{なに}かを決める

時^{とき}
にだけ

自分と対話

試^{こころ}
みやうぞ

(二〇二三年 二月 八日)

【あとがき】

『はねず日記』第一集、如何でしたか？

筆者として当歌集を、最後まで読んで下さった事に、深く感謝しております。

SNSでは短歌を投稿する度、他の方々がその都度見て下さるので、私にとっては、確かな励みとなりました。他の歌人ユーザーさんによる、素敵な短歌を見つけては、感銘を受けると同時に「こうしたらこういう短歌を詠めるのだろうか？」と、考えてしまいます。私自身、ほぼ手探り状態で毎回、自分なりの短歌を詠んでいるので、やはり尚更です。

それと時たまに「自分の短歌の詠み方、コレであってるかな？」「大丈夫かな？」と、自問自答する事がありますが……その場合は一旦立ち止まり、短歌の基本を調べたりして、復習するようにしています。

でも結局、肩肘張らずに自分の気持ちを、最大限に表現するのが一番だと、私なりに結論付けてますね！

次巻である『はねず日記』第二集も、近いうちに出したいと思っていますので、興味があれば是非とも、手に取って見て下さい。

ご感想も常時、SNS等で受け付けております！

皆様の短歌ライフが、より豊かになる事を、心から願って……。

短歌集 はねず日記 第一集

発行日：2025年 1月 27日

著 者：鹿江 朱華

連絡先：svwft66918@yahoo.co.jp

印刷所：セブンイレブン、
ファミリーマート、
ミニストップ、
ポプラグループ、ローソン

X（旧Twitter）ID：@hnz97713518